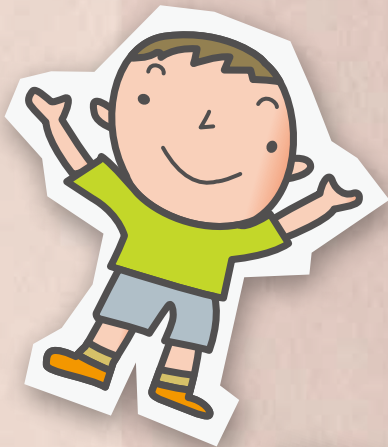
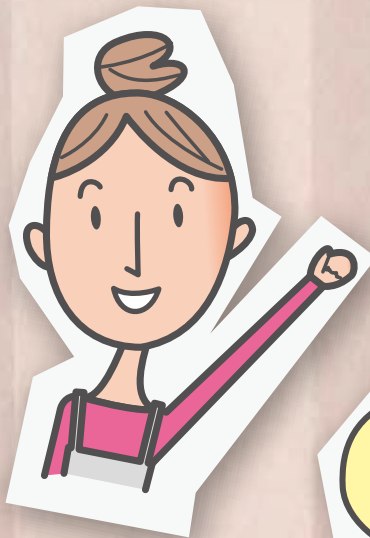
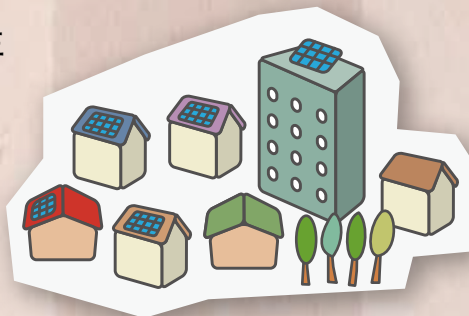


いけだ
かんきょう
レポート

2014



2015 年
池田市

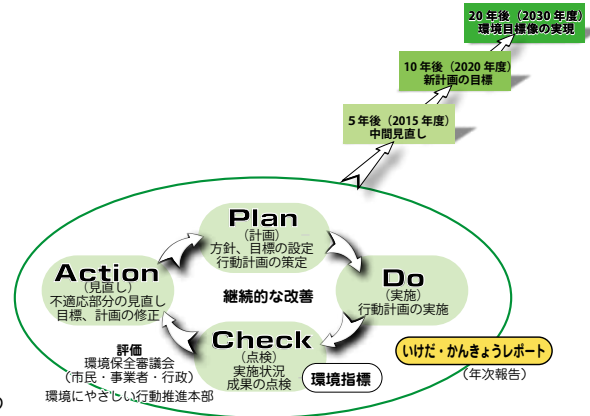


いけだ・かんきょうレポートとは

「いけだ・かんきょうレポート」は、池田市内における環境の取り組みを報告するものです。ここで報告するのは、行政の取り組みだけでなく、市民や市内の企業によるものも含まれます。

このレポートを通じて、より多くの方に市内の取り組みを知っていただくとともに、もっとたくさんの方に環境の取り組みを広めること、また『池田市新環境基本計画』の取り組みが進んでいるかどうかを見直して、よりよい取り組みにつなげることを目的に、毎年発行しているものです。

- ※この報告書の作成は、『池田市新環境基本計画』で定められているものです。
- ※行政や市民、事業者の取り組みについては2014年度を中心に記載していますが、エネルギー計算などの統計値については、把握可能な最新年度の数値を使用しています。



1年ごとに取り組みを点検するための資料です。
環境をまもり、よくするために、どんなことが行われているかが分かります。そして、環境のことを学んだり、考えたりするのも役立つものです。



案内役のウオンバットン君

topics

○環境学習基本方針を策定

学習を発展・波及させていくための施策等を整理した「池田市環境学習基本方針」を策定しました。

○市民共同発電所 4号機が始動

みなさんの協力によって市民共同発電所の4号機が「きたてしまプラザ」に設置されました。



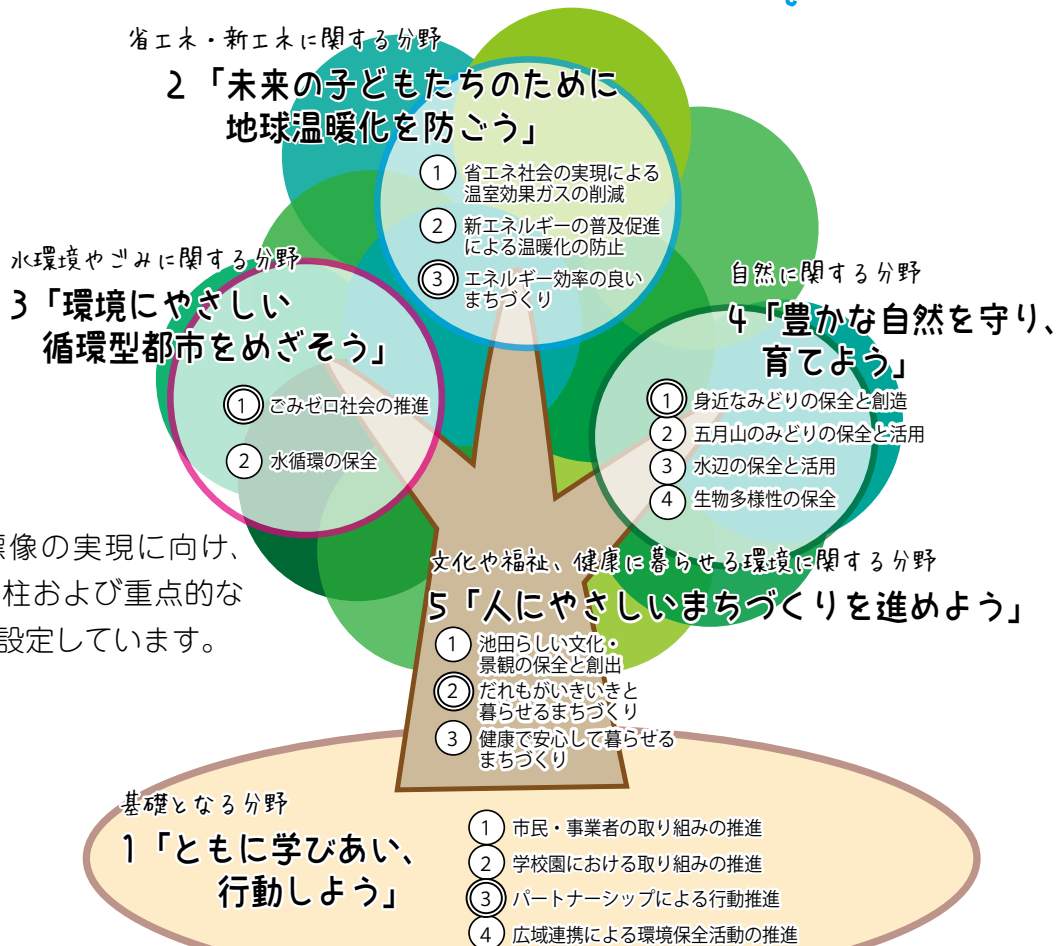
～ いけだ・かんきょうレポート 2014 目次 ～

はじめに	-----	1
I. 新環境基本計画の概要	-----	2
II. 環境目標の達成度	-----	3
III. 各分野の現状と主な取り組み	-----	5
1. とともに学びあい、行動しよう	-----	5
2. 未来の子どもたちのために地球温暖化を防ごう	-----	10
3. 環境にやさしい循環型都市をめざそう	-----	14
4. 豊かな自然を守り、育てよう	-----	17
5. 人にやさしいまちづくりを進めよう	-----	19
IV. かんきょうレポートによせて	-----	21

池田市新環境基本計画の基本的な方針として「今日の目標を明日の当たり前へ」をキャッチフレーズに、環境目標像を設定しています。



「環境にやさしいまち池田」の実現



環境目標像の実現に向け、取り組みの柱および重点的な取り組みを設定しています。

○ : 取り組みの柱

◎ : うち、重点的に取り組むもの

II. 環境目標の達成度

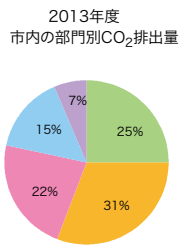
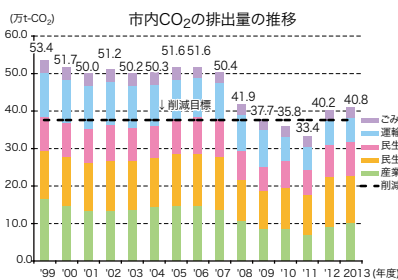
環境目標像の実現に向けて、池田市の計画が進んでいるかどうかを測るものさしとなるものが「環境目標の達成度」です。『池田市新環境基本計画』では8つの指標を設定しており、それぞれの達成状況は次のとおりです。

ー 30%をめざす！

2013年度 - 24%

①市内の温室効果ガス排出量

池田市内の2013年度CO₂排出量は、408,158トンと推算されました。これは基準年（1999年度）と比べると、約24%の削減となりましたが、前年度よりも6,526トン増加したと推定されます。目標達成のために、さらなる再生可能エネルギーの導入促進を行い、温室効果ガス削減をめざしていきます。



達成状況



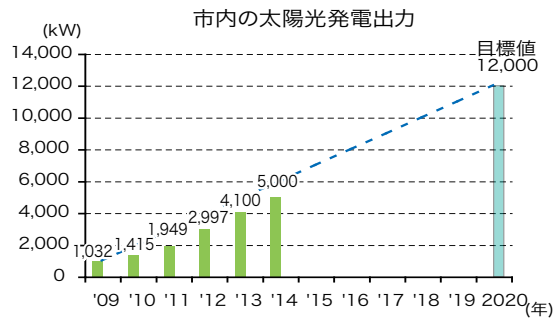
13年はちょっと伸び悩み...

12,000 kWをめざす！

2014年度 5,000kW

②市内の太陽光発電出力

2014年度の市内の太陽光発電出力は前年度から約900kW増加しました。2013年度で国が実施する補助制度が終了し、また固定買い取り価格も減少傾向にあります。引き続き広報などを通じて普及拡大をめざします。



達成状況



14年はまあまあかな。

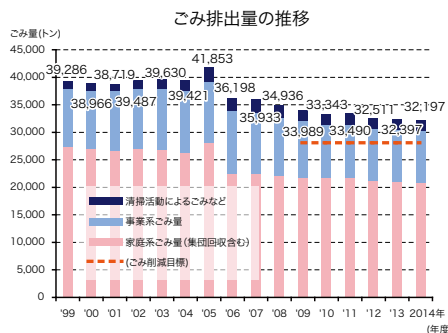
ー 20%をめざす！

2014年度 - 7.8%

③市内のごみ排出量

前年度から200トン減少し、32,197トンの排出となっています。2008年度比では7.8%（前年度は7.3%）削減され、目標の20%削減に近づきました。

2012年度からの家庭ごみの全量有料化により3年連続の減少となりましたが、今後も3Rの取組を進め、さらなる減量をめざします。



達成状況



14年もまあまあかな。

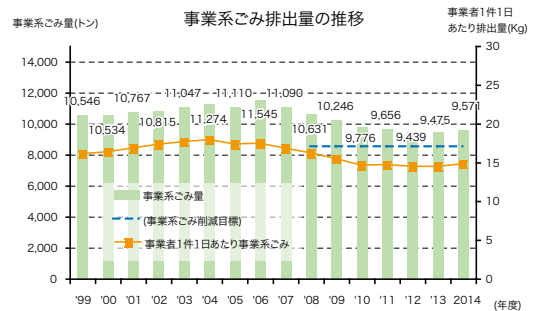
ー 20%をめざす！

2014年度 - 10.0%

④市内の事業系ごみ排出量

前年度から96トン増加し、9,571トンの排出となっています。2008年度比では10.0%（前年度は10.9%）削減でした。

2年連続の増加となっていますが、多量排出事業者制度による取組や効果的な施策の検討などを進め、減量化をめざします。



達成状況



14年はもうひと頑張り！

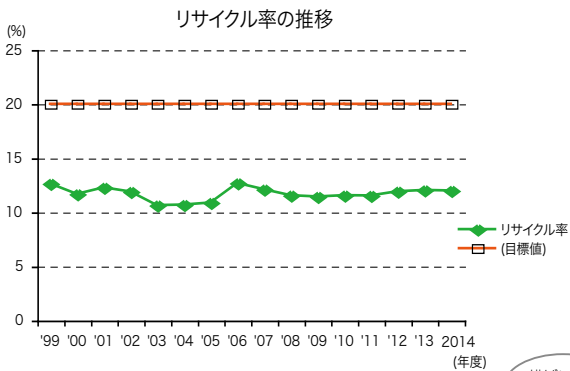
リサイクル率は20%!

2014年度 12.0%

⑤市内のリサイクル率

前年度から23トン減少し、3,879トンの資源化量となっています。リサイクル率は前年度と同じく、12.0%となっています。

資源物の半分近くが集団回収で集められており、今後も登録団体数の増加をめざします。



達成状況 横ばいが続くね。

20%以上をキープする!

2010年度 20.1%

⑥市内のまちの緑被率

市街地の実質的なみどりの総量を測ることを目的に、空中写真の解析へと手法を変え、2010年度は初めて池田市独自で調査し20.1%であることが把握できました。減少傾向にある「まちの緑被率(市街化区域の緑被率)」20%の維持が目標です。

一定規模以上の開発にあたっては緑化協定を、風致地区では基準の遵守により緑被率20%以上を保つよう努めていただくとともに、みどりの風促進事業や花いっぱい運動なども推進し、緑豊かなまちづくりを進めていきます。

	対象区域 (万㎡)	緑被面積 (万㎡)	緑被率 (%)
市全体	2209	1,189.8	53.8
市街化区域	1088	219.2	20.1
市街化調整区域	1,121	970.6	86.5

達成状況 緑が減った← →緑が増えた

1年に40地点実施する!

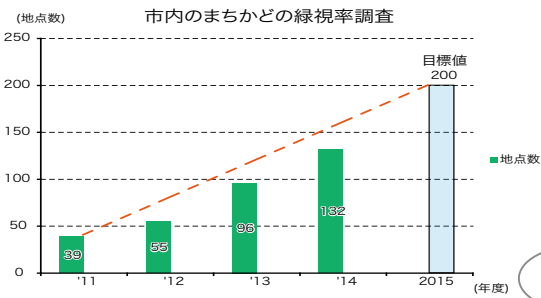
2014年度 132地点

⑦市内のまちかどの緑視率調査地点数

2010年度に全市的調査を行った「200地点」を、学校などに協力を求めて5年間で網羅することが目標です。

2014年度は秦野、呉服、石橋南小学校区内の36地点を活用して、環境出前授業を行いました。

小学生たちには、調査に協力してもらうだけでなく、みどりの役割や大切さを知ってもらうように努めています。



達成状況 ラストスパート!

地域戦略をつくって取り組む!

調査研究を継続実施

⑧市内の生物多様性を示す指標

現在、生物多様性の取り組みについて、市民の自然団体と協働して、生物多様性の情報収集や調査、研究などを継続して実施しています。

また、生物の多様性に関する自然環境や里山の保全につながる、ナラ枯れの調査や対策についても、2012年度より開始し、現在も調査研究を継続して実施し、被害対策に取り組んでいます。



達成状況 ちょっと停滞中。

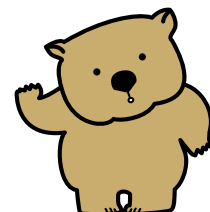
Ⅲ. 各分野の現状と 主な取り組み

ここでは、『新環境基本計画』で設定した環境を構成する分野(2ページの樹木の図)ごとに、環境の現状を把握するためのデータや取り組み内容を掲載します。

1. とともに**学び**あい、**行動**しよう

●重点的な取り組み「パートナーシップによる行動推進」

池田市では、様々な方々とのパートナーシップ体制のもと、環境への取り組みを進めています。2014年度は環境イベントの継続実施、関西大学、NPO いけだエコスタッフ、地域の方々にご協力いただいている連続出前授業に加え、教員、教育委員会、研究機関、事業者などが参加する「池田市環境学習研究会」において検討いただいた「池田市環境学習基本方針」を策定するなど、主に環境学習分野で連携した取り組みを進めました。



●この分野での指標や取り組み

エコミュージアム講座への参加者

(エコミュージアム)

エコミュージアムでは、不要になった着物のリメイクや、エコ実践教室などの各種講座を開催しています。環境に負荷をかけない生活に役立つ様々な知識が習得できます。

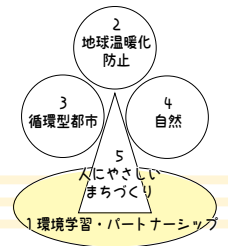
2014年度は前年度より4回多い27回開催し、182名の方が参加されました。



2014 NEW 環境学習基本方針の策定 (池田市ほか)

教員、PTA、学識経験者、NPO、企業、池田市教育委員会、池田市環境部などが参加する池田市環境学習研究会での2年間の議論を経て、環境保全審議会の答申に基づき、関係者が念頭に置いてめざしていくべき池田市における目標像、これを実現するためのよりどころとなる取り組みの方向性、小学校を中心とした取り組みを支援し、学習を発展・波及させていくために必要となる施策等を整理した「池田市環境学習基本方針」を2015年3月に策定しました。





いけだ環境トップランナー賞

(池田市、環境保全審議会、エコミュージアム)

事業者の環境活動を支援することを目的に、優れた環境の取り組みを行っている市内事業者を表彰しています。

5回目を迎えた2014年度はメールマガジン「いけだ環境トップランナー通信」に登録している63社に実施したアンケート結果をもとに環境保全審議会が選考しました。

今回は残紙・汚紙の削減と適正な廃棄物処理のほか、地域の小学校への短冊紙の提供や、中学校の職場体験に協力するなど地域貢献活動にも尽力されている「タツミ印刷株式会社」に、今後の環境への取り組みへの大きな期待をこめて「環境トップランナー奨励賞」が贈られました。



サイクル&エコカーニバル

(池田市、池田市教育委員会、

大阪府トラック協会河北支部、あおぞら財団)

2014年11月2日、宣真高校で「2014 サイクル&エコカーニバル」を開催しました。

今年で8回目を迎え、今回は38の企業・団体の協力を得て、天候不順にも関わらず、約1,000名が参加しました。

交通部門ではエコドライブシミュレーターや交通安全啓発、環境部門では手回し発電体験やうちエコ診断など、見たり体験したりして楽しく学べるイベントとなりました。



いけだエコ街（マーチ） ～エコ活動報告会～

（池田市）

2015年3月15日、池田市立3R推進センター（エコミュージアム）で環境シンポジウム「いけだECO街（マーチ）」を開催しました。

環境優良企業の表彰式や、環境出前授業の取り組み発表、環境学習基本方針に関する答申手交式などを行いました。



出前授業の実施数

（NPO いけだエコスタッフ、大阪ガス、関西電力、各小学校、池田市）

2014年度、環境にやさしい課が小学校へ案内し、実施された出前授業は14プログラムあり、延べ35校で実施されました。そのうち、企業が実施したものは4プログラム、16校、NPO等が実施したものは4プログラム、6校、市が実施したものは6プログラム、13校です。

また、一般向けには、1プログラムを市が開催しました。

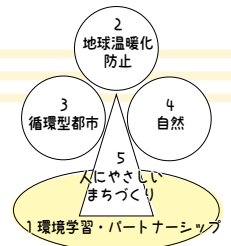


関大生による連続出前授業／子ども環境基本計画・出前授業

（細河小、関西大学、NPO いけだエコスタッフ、池田市）

市内の学校、関西大学政策創造学部・橋口ゼミ、NPO いけだエコスタッフ、池田市が協働で問題解決型を基本とした連続出前授業を行う取組。今年度は細河小学校4年生が、ごみになるものを使えるものに変えるリメイクに取り組みました。作ったリメイク品をエコミュージアムでお客さんにプレゼンテーションし、聞き取り調査を行い、さらに改善し、この一連の取組を参観授業とエコ活動報告会で発表しました。





■■■ 関大生コラム ■■■

出前授業を実施した関西大学の学生のみさんから感想文をいただきました。

環境出前授業に携わらせて頂いた中で、私が特に感じたことは子ども達の成長です。準備段階で私達が一番力を注ぐ所は出前授業のテーマについてどのようにしたら子ども達が自分ごととして捉えることができるかという事です。自分ごとになることでそれに対する自分の考えも生まれ、その中で子ども達は一気に成長することができると思います。出前授業に携わっている中でそのような子ども達の姿を見ることが私は楽しみであり、出前授業へ向けての準備などの原動力になっています。このような貴重な経験は誰もができるわけではないので、とても有難く思っています。



(山口健生)

私は環境出前授業を通して、伝え方の大事さを学びました。私たちが答えを教えるのは簡単ですが、いかに子ども達に自ら考えて行動してもらえるか、どのようにしたら子ども達が自分の身近な問題だと感じてくれるか、という事が一番大事だと感じました。聞き方や伝え方を工夫するだけで子ども達も自分の意見を言うようになるようになり、私自身とっても大きな学びとなりました。(中琴美)



小学校で実際に行う授業を自分たちで企画し、実施することは今までやったことが無かったので、今回環境出前授業に関わらせていただいたことは貴重な経験になりました。

子どもたちには家庭にあるゴミ等を使って、資源の大切さについて学んでもらいました。授業の終盤に保護者の方に実施したアンケートで、「子どもの資源に対する普段の考え方や行動に変化がみられた」という内容の回答をいくつかいただいた時は、とてもやりがいを感じました。子どもたちにとって、この環境出前授業が有意義な時間になってくれていたら嬉しいです。(新田光右)

環境授業に携わらせて頂く中で、授業内容を自分達で一から企画・実施することの難しさ、やりがいを強く感じました。このような経験は初めてな為、試行錯誤しながら取り組みましたが、私達が一生懸命伝えようとする、子ども達も頑張って理解しようとしてくれる姿が凄く印象的でした。また、伝え方によって子ども達の行動も変化するということを学びました。この授業は私達大学生、市役所、



NPO、小学生が一体となって一つの授業を作り出し、みんなで成長できたと思っています。子ども達にとって、大人になっても記憶に残るような授業になっていたら嬉しいです。

(魚谷朋可)

地域の未来を担う子どもたちを育てるために、まずは自分の住む地域に興味を持ち、地域の人と繋がり、身近な課題を解決する。活動を通して、子どもたちの積極性や協調性が見られるようになり、さらに学校外でも、授業で学んだことを周りに伝え、実践してくれていることを聞き、この環境出前授業の目的に、少しずつ、一歩ずつ近づいているのではないかと感じました。



また、私たち自身も、さまざまな人や組織と協働で授業を行うことにより、たくさんの価値観と出会い、視野の広がりとともに、教育の難しさや責任の大きさ、楽しみややりがい

を感じる事ができました。これからも、共生社会や教育について考え、行動し続けていきたいと思っています。（西脇有紗）



【細河小学校の先生からひとこと】

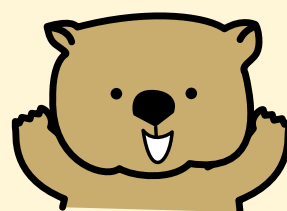
環境学習の一貫として、身近な環境問題について学習し、その課題に対してどのようなことができるのか、大学生と一緒に考えていきました。子どもたちは大学生との交流ということで、新鮮な気持ちで学習に取り組む姿が見られました。自分たちが普段出しているごみを活用してリユース品

を計画し、製作に取り組んでいきました。また作った作品をエコミュージアムで一般の方々に評価していただき、手直しを加えていながら、作品を完成させていきました。地域の方の意見をもらうことにより、ただごみを使って作品を作るのではなく、使ってもらう相手のことを考えて工夫していく子供たちの姿が見られました。また、保護者の方の感想などを聞くと、家でもリサイクルやリユースなどごみについて話題にすることがあったようで、子どもたちが環境についての問題意識を持つことができたのではないかと思います。（竹内祐太）



次のステップに向けて

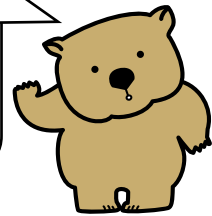
2014年度は「池田市環境学習研究会」で環境学習の推進方法について検討いただき、その成果として「池田市環境学習基本方針」を策定しました。今後は本方針に基づき、環境学習の推進に向け、学校に対する学習支援や学習相談窓口の設置などにパートナーシップで取り組み、環境学習の全市的な推進をめざします。



2. 未来の子どもたちのために地球温暖化を防ごう

●重点的な取り組み「エネルギー効率の良いまちづくり」

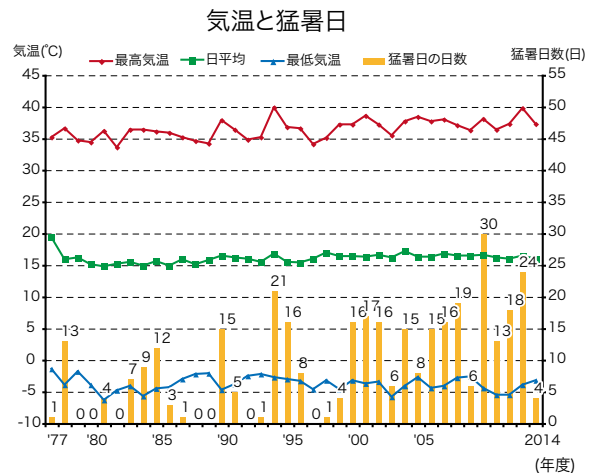
『新環境基本計画』では、「エネルギー効率の良いまちづくり」を重点的な取り組みとしています。「池田市都市計画マスタープラン」においても、低炭素社会の推進に向けた中長期的な都市づくりのあり方について研究することとしています。2014年度は、市役所を含む2つの公共施設に蓄電池と太陽光パネルを設置するなど、低炭素社会の推進に努めました。



●この分野での指標や取り組み

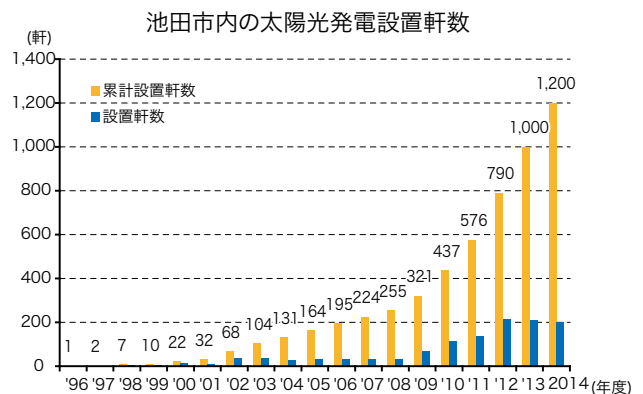
気温と猛暑日

2014年度は、最高気温37.3℃、最低気温-3.2℃、平均気温16℃、猛暑日（最高気温が35℃を超える日）の日数は4日でした。2014年度は夏場に雨の日が多かったため、例年より気温は低めでしたが、猛暑日は17年連続で発生しています。



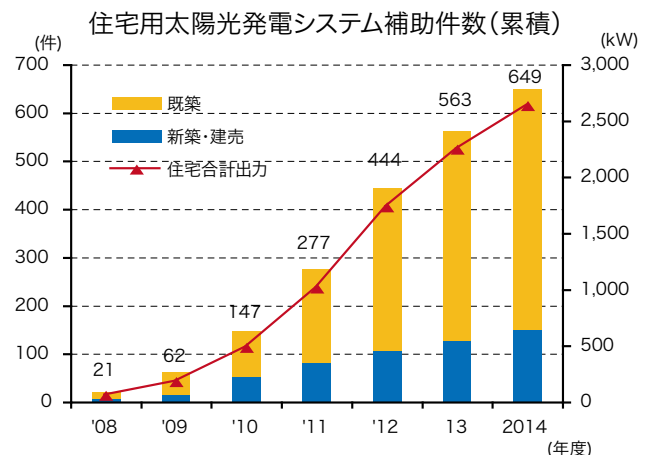
池田市内の太陽光発電設置数

2014年度の市内の太陽光発電設置軒数は約200軒で、現在約1,200軒の太陽光発電システムが市内に設置されています。国の補助制度は終了しましたが、池田市では設置費補助制度を引き続き実施し、設置の後押しをしています。



住宅用太陽光発電助成実績 (池田市)

2008年から住宅用太陽光発電システムの設置に対して出力1kWあたり25,000円で5kWまで補助しています。2014年度は86件、合計389.44kWの太陽光発電システムに補助金を交付しました。これにより1年間で約201トンのCO₂削減効果があると見込んでいます。

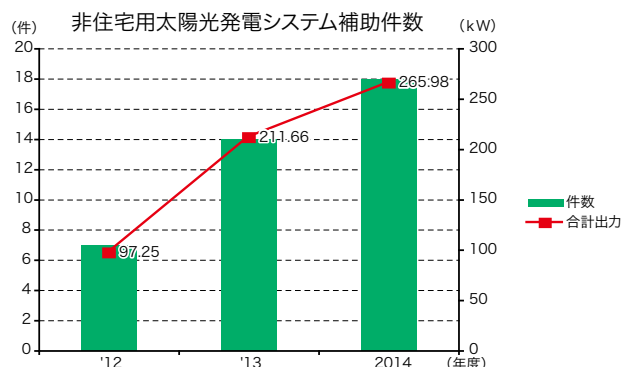


凡例 2014 NEW : 新たな取り組み expand! : 拡充した取り組み

非住宅用太陽光発電助成実績 (池田市)

2012年度から事業所や工場、集合住宅の共用部分など非住宅用の太陽光発電システムを設置する場合でも、出力1kWあたり25,000円で10kWまで補助しています。

2014年度は4件、54.32kWの太陽光発電システムに補助金を交付しました。

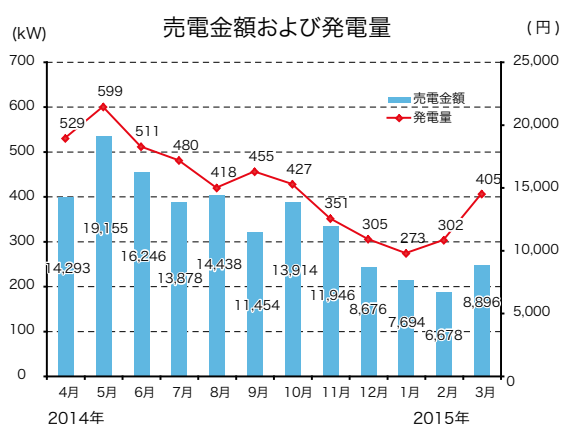


環境家計簿による売電金額及び発電量 (池田市)

住宅用太陽光発電システム補助制度を利用した方には、2ヵ年分の使用状況報告書と環境家計簿の提出を義務付けています。

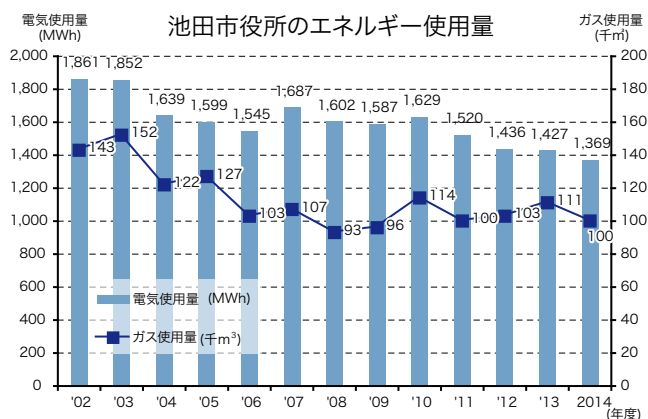
2013年度に太陽光発電システムを設置した方から頂いた数値を集計した結果、1家庭の年間平均売電額は147,268円でした。

また、1家庭の年間平均発電量は5,055kWh (平均発電出力: 4.42kW) であり、これによるCO₂削減量は2,608kgと推算されます。



池田・府市合同庁舎のエネルギー使用量と節電 (池田市)

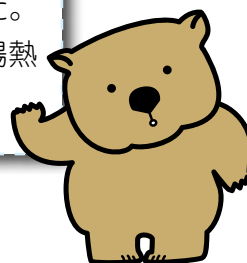
2014年度も引き続き全国的に節電の取り組みが求められ、池田市役所でも照明の間引きや消灯の徹底に取り組みました。2014年度は夏季が比較的涼しい日が多かった為、電気使用量は、前年度と比較して58,448kWh削減し1,368,894kWhとなり、ガス使用量も10,891m³減少し、100,097m³となりました。

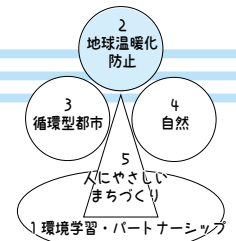


燃料電池、太陽熱利用システム設置費補助制度開始 (池田市)

エネルギー効率の良いまちづくりをめざし、2015年度から新たに家庭用燃料電池、太陽熱利用システムの設置費補助制度を開始しました。

補助額は、燃料電池は設置費用の10分の1で上限10万円、太陽熱利用システムは設置費用の5分の1で上限6万円です。

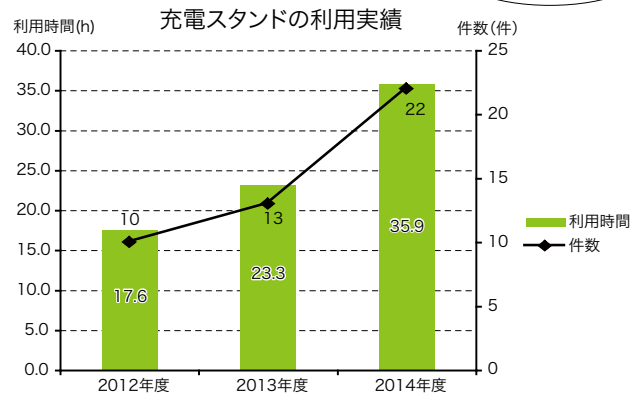




充電スタンドの利用実績 (池田市)

電気自動車の普及や多様なエネルギー源による車両の確保を目的として、池田・府市合同庁舎駐車場へ電気自動車用充電スタンドを設置しています。充電スタンドは事前予約制ですが、無料でご利用いただけます。

2014年度は延べ22件、約36時間の利用がありました。



市民共同発電 4号機

(池田新エネ推進協議会、NPO いけだエコスタッフ、池田市、北豊島地域コミュニティ推進協議会)

池田新エネ推進協議会では、池田市と協働で、市民・事業者等からの寄付を財源に市民共同発電所の設置を進めています。

2014年度には、4号機となる太陽光パネル(10kW)と蓄電池(5kWh)を、きたてしまプラザに設置しました。発電した電力は施設内で使われるほか、電力会社に売却され、売電収益は市民共同発電所の設置基金として積み立てられます。蓄電池については停電時に地域の非常用電源として活用されます。



2014

NEW

池田・府市合同庁舎屋上太陽光 (池田市)

大阪府再生可能エネルギー等導入推進基金事業補助金の交付を受け、2015年3月、池田・府市合同庁舎に10kWの太陽光パネルと15kWhの蓄電池を設置しました。通常時は庁舎全体に電力を供給しますが、停電時は、庁舎の非常用照明と池田市災害対策本部に電力を供給します。

凡例 2014 NEW : 新たな取り組み expand! : 拡充した取り組み

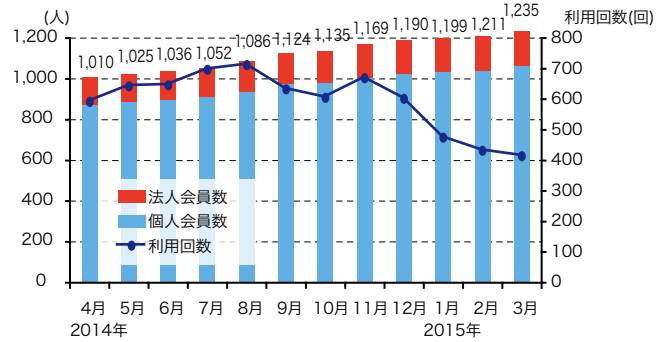
ふくまるカーシェアリング

(池田市、タイムズ 24、ダイハツ)

池田市ではダイハツ工業㈱から提供を受けた超低燃費車ミライースなどを活用し、タイムズ 24 ㈱と協働で温暖化防止を目的にカーシェアリング事業を実施しています。市が駐車場の確保や、会員募集の PR を行い、タイムズ 24 ㈱が運営を担当しています。

事業開始から 3 年を迎えた 2014 年度は、ダイハツ車両のリース契約の終了に伴い、12 月にステーションを 16 箇所から 11 箇所に、3 月に 11 箇所から 10 箇所に縮小したため、協働ステーションでの利用回数は減少しています。

会員数と利用回数の推移



expand!

細河・能勢の新鮮野菜市

(細河みどりの郷、エコミュージアム)

エコミュージアムでは 2013 年度より実施している毎週水曜日の細河野菜の販売に加えて、2015 年 2 月から毎週金曜日に能勢の無農薬野菜の販売も始めました。地産地消を推進し、輸送距離を短くすることで CO₂ の削減にも貢献しています。



expand!

古江浄水場電気機械設備の更新 (池田市)

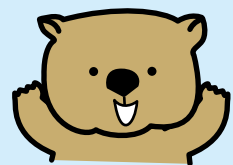
浄水場稼動から 30 年以上経過し、更新時期となった受変電設備、取水・送水ポンプ設備について工事をを行いました。

古江浄水場はエネルギー管理指定工場に認定されている為、省エネ法で定められた特定機器の導入を検討し、高効率変圧器、高効率電動機への更新を行ない、2013 年から 2014 年にかけて約 8% の電気使用量を削減しました。



次のステップに向けて

東日本大震災以降、原子力利用率の低下に伴う火力発電量の増加により、CO₂ 排出係数が年々上昇しています。今後も厳しい状況ではありますが、太陽光発電システムのほか、燃料電池システムと太陽熱システムの設置を合わせて推し進めるとともに、地域全体での CO₂ 削減策について研究を続け、低炭素社会の構築をめざします。

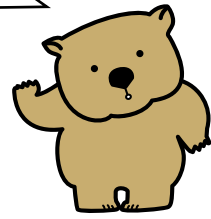


3. 環境にやさしい循環型都市をめざそう

●重点的な取り組み「ごみゼロ社会の推進」

池田市では、ごみ排出量 20%削減をめざして各種減量施策に取り組んでいます。

2014 年度も指定袋制度、集団回収補助制度などを引き続き行うとともに、各種イベントでの啓発や小学校への出前授業などを実施し、ごみの減量に努めました。

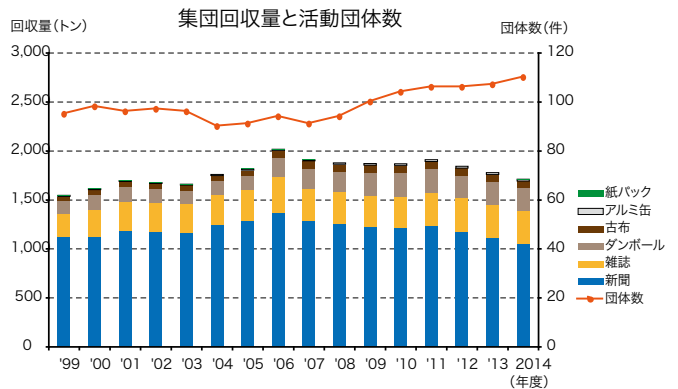


●この分野での指標や取り組み

集団回収量（池田市、集団回収団体）

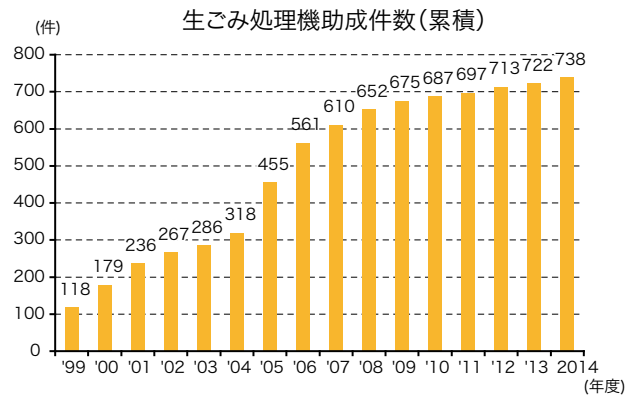
再生可能な有価物を集団回収している団体に補助金を交付することで、ごみの減量化の推進とともに、団体育成やリサイクル意識の啓発を図っています。

2014 年度は、109 団体で約 1,714 トンの資源物が回収されました。



生ごみ処理機の購入助成（池田市）

ごみの減量化と資源化を推進するため、電気式生ごみ処理機の購入にかかる費用の一部を助成しています。2014 年度は 16 件、合計 382,000 円を交付しました。

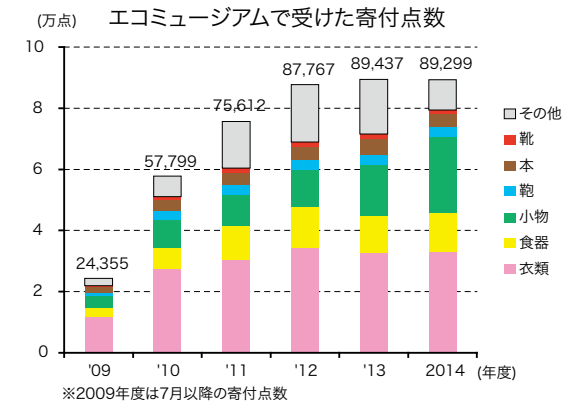


衣類等の寄付

（エコミュージアム、市内小学校 PTA、池田市）

2014 年度にエコミュージアムや市内小学校で寄付された衣類の点数は 89,299 点でした。

寄付品は、エコミュージアムで販売し、その収益を市民共同発電所の設置に活用しています。

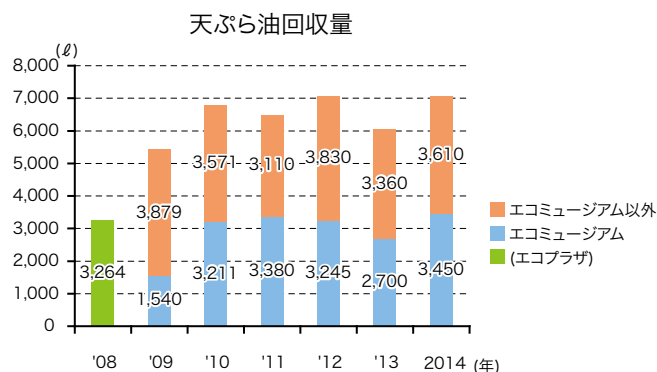


凡例 2014 NEW : 新たな取り組み expand! : 拡充した取り組み

天ぷら油の回収 (エコミュージアム、市内小学校PTA、阪急バス、池田市)

エコミュージアムや市内小学校で回収された使用済み天ぷら油は、2014年度で7,060リットルでした。

天ぷら油は、BDF(バイオディーゼル燃料)にリサイクルしており、市内を走る阪急バスに利用されています。

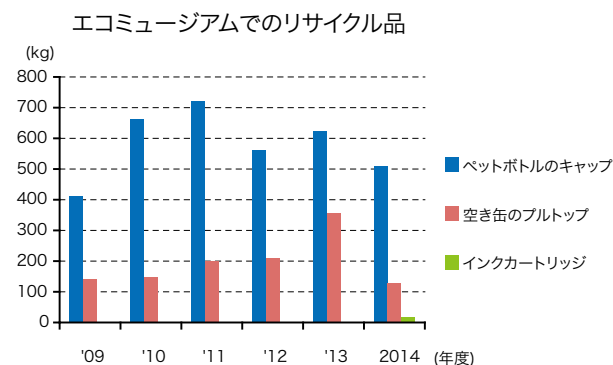


リサイクル品の各種回収

(エコミュージアム、池田市理容組合、東山作業所)

エコミュージアムでは諸団体と連携してリサイクル品の回収を行っています。

2014年の回収量は、ペットボトル・キャップ 511kg、プルトップ 130kg、インクカートリッジ 16kgでした。



●回収しているリサイクル品

○プルトップ

回収したものは池田の理容組合がまとめてリサイクル業者へ引き渡しリサイクルされています。その引取り費用で車いすを購入し寄贈する活動をされています。

※池田市友愛クラブ連合会が実施していた木製割りばしの回収は、2013年度で終了しました。

○ペットボトル・キャップ

回収したものは東山作業所にて仕分け・洗浄した後リサイクル業者へ引き渡し、プランターなどにリサイクルされています。その引取り費用が東山作業所の活動資金に活用されています。

○インクカートリッジ

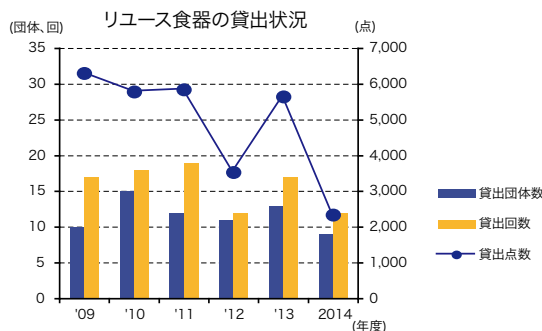
回収したものは東山作業所にて色分け・メーカー別に仕分けした後にリユース企業に引き渡されています。その引取り費用が東山作業所の活動資金に活用されています。

イベントでのごみ分別、減量

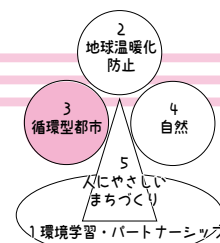
(エコミュージアム)

エコミュージアムでは、市内で開催されるイベントで、リユース食器の貸し出しやごみの分別回収、出店者への排出削減の呼びかけを行い、主催者とともにごみをなるべく出さない、減らす取り組みを行っています。

2014年度のリユース食器の貸出団体数は9団体、貸出回数は12回、貸出点数は2,341点となっています。



食器のレンタルはエコミュージアム (072-752-7711) へお問い合わせ下さい。
<http://ikeda-ecomuseum.org/rental.html>

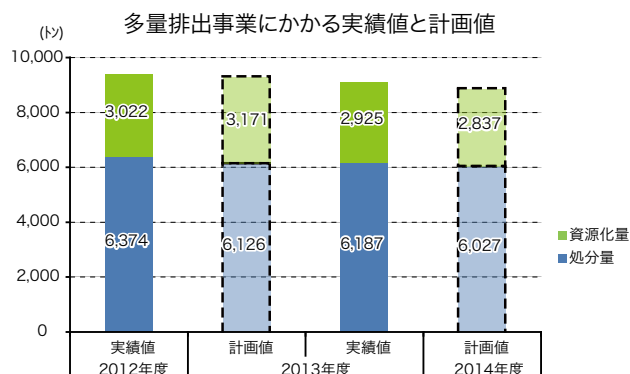


多量排出事業者制度（池田市、多量排出事業者）

事業系ごみの排出量が月間3トンを超える事業者に対して、事業系一般廃棄物減量計画書の作成及び実績報告書の提出を義務付けています。

2013年度は21社6,126トンの計画値が掲げられていましたが、実績としては19社6,187トンとなり、計画値を上回りました。

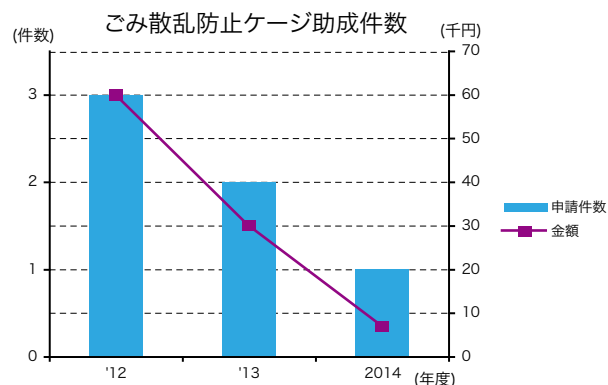
2014年度は6,027トンの排出が計画されています。



ごみ散乱防止ケージ助成（池田市）

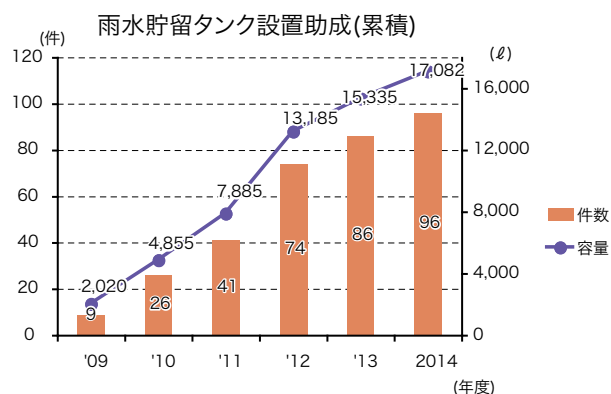
2012年度から、鳥獣による家庭ごみの散乱を防止することを目的として、ごみ散乱防止ケージを設置する個人や団体に対して、購入額の3分の2（上限30,000円）を助成しています。

2014年は1件補助しました。



雨水タンクの設置助成（池田市）

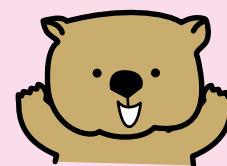
2009年度から雨水貯留タンクを設置される方に購入価格の2分の1（上限30,000円）を助成しています。2014年度は10件、合計容量1,747リットルが設置されました。



次のステップに向けて

ごみの減量化を進めるには、制度面および意識啓発の双方の取り組みが重要となります。

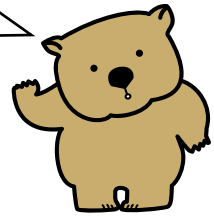
今後も、ホームページや広報誌、イベント、出前授業などによる啓発に取り組むとともに、分別品目の拡大など、新たな制度の導入を検討していきます。



4. 豊かな自然を守り、育てよう

●重点的な取り組み「身近な緑の保全と創造」

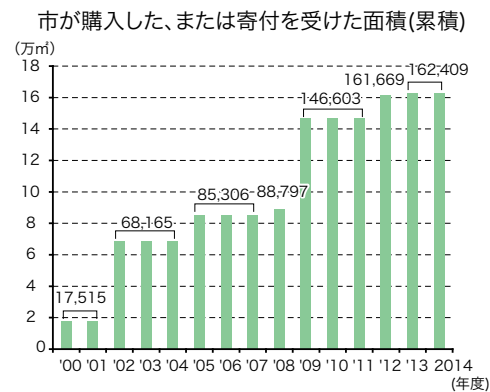
池田での貴重な動植物を展示する自然展や、市民参加型の寄せ植えコンテストを行って啓発に努めました。身近な里山・五月山には依然、発生しているナラ枯れ対策にも取り組んで、うるおいのあるまちづくりを進めました。



●この分野での指標や取り組み

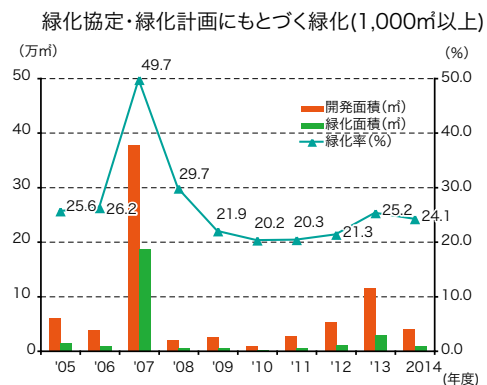
さんろく 山麓・山間緑地保全区域内の土地の購入

2014年度の購入・寄付等はありませんでした。五月山の身近な自然を守るためにも、積極的な購入に取り組んでいきます。



緑化協定、緑化計画

市環境保全条例に基づき、開発行為等を行う土地で面積が1,000㎡を超えるものは緑化協定の締結を、1,000㎡以下で条例に該当するものは緑化計画書の提出を義務づけ、敷地面積の20%以上の緑地を設けるように指導しています。



池田の自然展 (池田・人と自然の会)

池田市の自然環境への関心を高めてもらうことを目的として、2014年7月22日から25日にかけて、市役所ロビーで池田に生息している生物やその標本、ポスター等を展示する「池田の自然展」を開催しました。

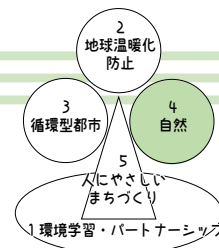


サクラ並木の整備 (池田市)

猪名川沿いを新たなサクラの名所とすることを目的として、神田及び新町地域にサクラを植栽しています。2010年度のソメイヨシノ18本に続いて、2012年度は7種類のヤエザクラ21本、2013年度には10種類のヤエザクラを30本、2014年度には新たに8種類のヤエザクラを24本植樹し、総延長は約1.1kmとなりました。

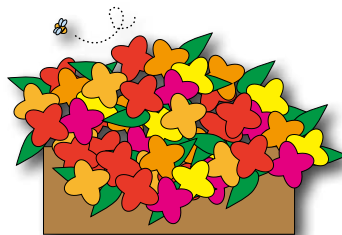
事業費の一部には、「みんなでつくるまちの寄付」を活用しています。





花いっぱい運動 (池田市、市内 26 市民団体)

市内で活動中の花いっぱい運動の団体は、年に二回草花を植え替えて市内のいたるところで美しい花を咲かせて、地域の癒やしの場を提供してくれています。



ナラ枯れ対策

(五月山グリーンエコー、池田・人と自然の会、池田市)

国、府の補助を受け、2012 年度よりカシノナガキクイムシの駆除に取り掛かっていますが、2014 年度は過去最高の被害木数となりました。今後も、被害の収束に向けて調査、対策を継続します。



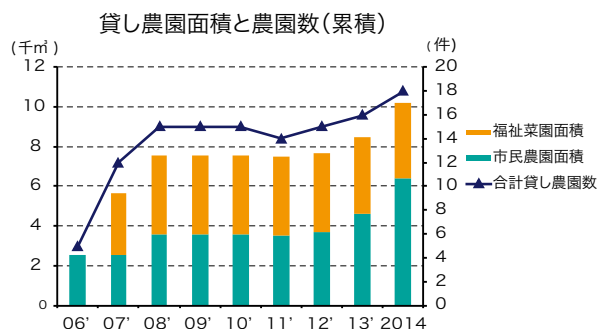
寄せ植えコンテスト (池田市緑化推進委員会)

第 3 回寄せ植えコンテストは、2014 年 11 月 15 日、16 日に池田駅前公園で開催し、天候もよく多くの来場者が来られ、大盛況となりました。今年は個性豊かな作品が 30 点出展され、年々作品のレベルが高まっています。



貸し農園 (池田市)

2005 年の法改正により農家などが農業委員会の承認を得て、農地を直接貸すことが出来るようになりました。池田市内の市民農園をはじめとする貸し農園は、2014 年度には 18 件、10,205.2㎡となっています。



次のステップに向けて

花いっぱい運動や寄せ植えコンテストを通じて、参加者に緑を身近に感じてもらうよう努め、今後も行事の拡大をめざします。

ナラ枯れ対策としては、過去最多の被害木数が確認され、被害の拡大防止のための伐倒・くん蒸処理を行いました。今後も里山保全に取り組んでいきます。

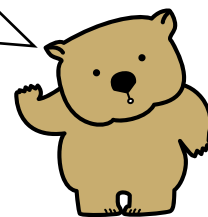


5. 人にやさしいまちづくりを進めよう

●重点的な取り組み「だれもがいきいきと暮らせるまちづくり」

2014年度は、地域分権制度やまちづくり出前講座などを引き続き実施し、活力あるコミュニティづくりを推進するとともに、大学および学生、電鉄会社と連携して池田市内の環境美化に取り組みました。

また、継続的に各種公害測定を行い、健康で安心して暮らせるまちづくりに取り組みました。



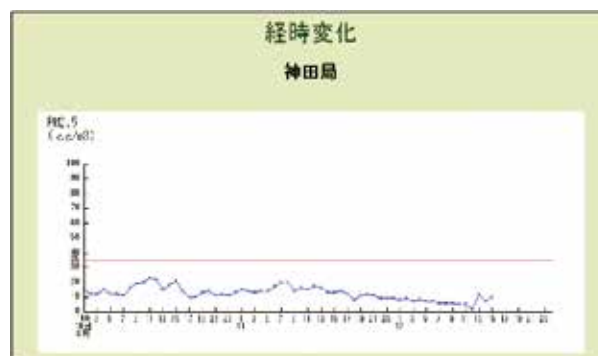
●この分野での指標や取り組み

微小粒子状物質（PM2.5）の測定

2012年4月より、神田大気観測局にて微小粒子状物質（PM2.5）の測定を開始しました。測定結果の速報値は、池田市のホームページ（<http://kankyo-ikeda.jp>）で見ることができます。

なお、2014年4月からは神田大気観測局に加えて、大阪府が設置している南畑会館測定局でのデータも同ページで公開しています。

PM2.5の環境基準には短期基準と長期基準の二つがあり、この両方を満たすことが環境基準への適合となりますが、2014年度は長期基準を超過しました。黄砂などの影響で濃度が上昇したことが原因と考えられます。



*PM2.5とは、大気中に浮遊する粒子状物質のうち、粒径が $2.5 \mu\text{m}$ （ $= 0.0025\text{mm}$ ）以下の微小な粒子のことです。粒径が小さいため（髪の毛の $1/30$ 程度）、肺の奥深くまで入りやすく、健康被害が懸念されます。発生源はボイラー、焼却炉などのばい煙を発生する施設や自動車等の人為起源のものと、土壌、海洋等の自然起源のものがあります。

<環境基準>

1年平均値 $15 \mu\text{g}/\text{m}^3$ 以下（長期基準）かつ、1日平均値の年間98%値が $35 \mu\text{g}/\text{m}^3$ 以下（短期基準）であること。

μ ：マイクロ。1 μg =1,000,000分の1g



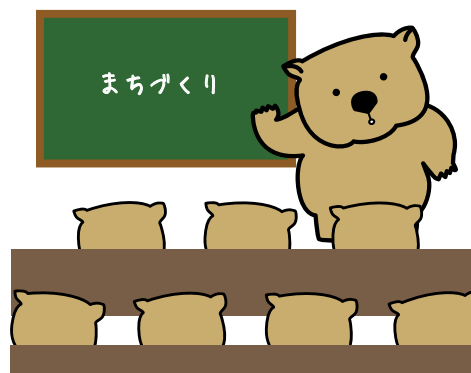
携帯電話でおおさか防災ネットに受信申し込みをすれば、PM2.5が高濃度になると予測されたときにメールが配信されます。

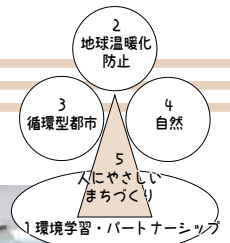
神田大気観測局測定結果

年度	年平均値	有効測定日数 日	日平均値が $35 \mu\text{g}/\text{m}^3$ を超えた日数とその割合		日平均値の年間98%値 $\mu\text{g}/\text{m}^3$	日平均値の最高値 $\mu\text{g}/\text{m}^3$	環境基準適合状況	
	$\mu\text{g}/\text{m}^3$		日	%			短期	長期
2013	16.2	365	14	3.8	37.5	55.2	×	×
2014	15.1	363	7	1.9	33.2	47.9	○	×

市役所職員による「まちづくり出前講座」（池田市）

市民と行政の協働をめざして、行政の制度や計画、事業などをよりわかりやすく理解してもらうための「まちづくり出前講座」を実施しています。2014年度は、各種団体からの要望で、防災関係講座が7回、消費者トラブル関係講座が6回、自転車安全教室、特別支援教育講座、下水道の仕組み講座、福祉制度関係講座がそれぞれ1回の計17回開催されました。





環境にやさしいエコクッキング講習会

(北豊島地域コミュニティ推進協議会)

「楽しみながらエコ」をテーマに、いつもは捨ててしまう野菜の葉っぱや冷蔵庫に眠る余りものを上手に使う、エコクッキングに取り組んでいます。

2014年度は、ベジタブル(野菜)とブロス(だし)を合わせたベジブロスの炊き込みご飯を作り、楽しくエコに取り組みました。



ペットマナー啓発

(石橋南地域コミュニティ推進協議会)

「美しいまち池田にしよう」をスローガンに、ペットマナーの啓発に取り組んでいます。

2014年度は石橋南小学校東側4箇所に啓発看板を設置しました。



五月山清掃登山 (帝塚山大学)

2015年3月30日、五月山の美化を目的として、帝塚山大学スポーツ医学研究会の学生が清掃登山を行いました。20名で手分けしてごみを集めた結果、燃えるごみ4.5kg、燃えないごみ6.2kg、計10.7kgのごみを回収しました。



まちの美化運動

(大阪大学環境サークルG E C S)

大阪大学の学生が、「まちをきれいにする」を合言葉に、大阪大学周辺を対象として、まちの美化に取り組んでいます。

ただごみを拾うだけでなく、データをまとめて対策を提案するなど工夫をこらし、2014年度は阪急電鉄の協力を得て、阪急石橋駅前のポイ捨ての多い側溝に蓋を設置しました。



次のステップに向けて

この分野は、環境分野だけにとどまらず、地域の活性化やまちづくりなど、より広い範囲の施策と繋がっています。

2014年度は、この分野でも大学などとの連携が進みました。今後も、これらの連携を拡大するとともに、地域コミュニティも巻き込んだ取り組みへの展開を検討します。



IV. かんきょう レポート によせて

新環境基本計画の基本的な方針「今日の目標を明日の当たり前」をキャッチフレーズに「環境にやさしいまち池田」の実現を目標としていることはすばらしいことであると思っております。

この「いけだ かんきょうレポート」は 1200 部作成し、市内の学校園の先生、環境講座・受講者、市役所各課、市議員、本市への視察団体に配布されるそうですが、内容はしっかりしているのに一般の市民の目に入りづらいのが残念です…。

レポート（報告）なので、一方的な発表でも良いわけですが、やはり実践しておられる方、読まれた方の反応が気になります。

省エネ・新エネに関すること、水やゴミに関すること、健康に暮らせる身の回りのことを共に学び合い、行動することにより多くの人たちの賛同を得、広がっていきたいものです。

今回、池田市長より「いけだ環境トップランナー奨励賞」をいただき恐縮しております。

印刷業は、ご存じのように一昔まで、有害な鉛・錫・アンチモンの合金材質で出来た活字というもので組版をし、その表面にインキをつけ紙に転写する凸版印刷から、親油エリアと親水エリアをアルミ板にアーク灯で焼き付け、有害溶液を多く使用するオフセット印刷でしたが、今はレーザー光線による焼き付けに変わり、有害溶剤の使用が少なくなりました。

印刷業界も近年、急激に進歩変革いたしております。

使用する溶剤も、灯油・ガソリンから揮発性溶剤に変わり、数年前に世間を騒がせました。

インキを洗う溶剤ジクロロメタンによる気管癌・皮膚癌の発生も見られました。

今は、そのようなものは業界では一切使っていないので、一昔に比べれば人に優しい、環境に優しい企業に変わっております。

今回、奨励賞の対象のひとつになりました、残紙のリサイクル化、余紙の再利用化、薬品・溶剤の無害化、廃液の垂れ流しゼロなど全社で実践しております。まだまだ、改革しなければいけないことが多々あり、今後、より環境に優しい企業になれるよう全社で取り組んでまいります。

「環境トップランナー奨励賞」受賞企業
タツミ印刷株式会社
代表取締役 中堂 武賢



かんきょうレポートによせて

私は大阪の和泉市、富山県高岡市、三重県鈴鹿市にそれぞれ何年間か暮らしたことがあります。その地域で特色や暮らしやすさは違いましたが池田に戻ってきて感じたことは「やっぱり池田はええなぁ」という正直な感想でした。池田は五月山、猪名川の自然に囲まれ、植木のまちとして多くの緑にも囲まれ、交通の要衝としての利便性も優れている。池田だけにいたのでは気づくことのできない素晴らしい地域環境だということを再認識しました。また青年会議所活動で環境啓発に携わることで行政・市民・企業の環境に対する意識の高さに驚きもしました。

青年会議所では、地域の環境問題を地域の人々が問題意識を持ち解決していくことが地球規模での持続可能な循環型社会へつながると信じて啓発活動を続けています。わがまち池田も環境問題に独自の目標を明確に定め、一步一步地道に問題解決に向けて行政・市民・企業が共に活動されておられます。「かんきょうレポート」を今後もよりよい池田のまちのために活用し、未来を担う子どもたちによりよい環境を残していくことが大切だと感じました。

昨今、日本を取り巻く自然環境は大きな岐路にたたさされていると思います。温暖化の影響が、ゲリラ豪雨や大量の台風の発生による風水害の多発。東日本大震災の爪痕である福島第一原発の放射能汚染の不安は、大気、海洋に広がり日本のみならず周辺国、世界中への懸案になるなど人間の活動が地球規模で自然環境との調和を乱しうることを実感させられました。少しずつでも地道に環境問題に地域の人々が意識をもって取り組んでいくためにも「かんきょうレポート」が一翼を担ってもらえると信じています。



池田市環境保全審議会委員
新田祥平

2014年度は、地球温暖化の影響とも思える豪雨により本市のイベントが軒並み中止となり市内各所で被害も発生しました。温暖化防止をはじめ環境問題の解決には一人ひとりが問題発生の原因を理解し、解決に向けて知恵を出し合い、行動していく必要があります。その力を育むのが環境学習です。

以前より、教育委員会、PTA、研究機関、NPO、企業等で構成する「池田市環境学習研究会」を設置し検討を進めてきた環境学習の推進についての方向性が、「池田市環境学習基本方針」としてとりまとめられました。

今後は、この方針に基づいて実施される環境学習を支援するサポートセンターの整備と機能強化など、環境学習の全市的な普及に向け実践的な取り組みに努めて参ります。

また、2015年は「池田市新環境基本計画」の中間見直しの時期となっており、本レポートによる進捗状況の把握に加え、各課の環境施策の進捗調査にも取り組みます。

ともに知恵を出し合い「環境にやさしいまち池田」の実現に更に一步、近づけるよう、一緒に取り組んで参りましょう。

池田市長 小南 修身

編集後記

池田市内のごみ排出量は毎年減量傾向にあり、ここ10年間で約1万トンのごみが削減されました。エコミュージアム（池田市立3R推進センター）には、皆さまから約90,000点の再利用可能な品物を寄付いただいております。池田市に使えるものは再利用する意識がかなり浸透してきていると思われます。環境学習基本方針も策定され、子どもたちにもさらなる環境への取り組み意識を身につけてもらい、池田市一丸となって環境目標像が達成されるよう、取り組みを進めていきたいと思っております。

環境部 環境にやさしい課

○市内の温室効果ガス排出量
408,158ト (2013年度)
-24%

○市内の太陽光発電出力
5,000kW (2014年度)



面積 / 22.14km²



○市内のまちの緑被率
20.1% (2010年度)

○市内のまちかどの
 緑視率調査地点数
累計132地点 (2014年度)

○市内の生物多様性を
 示す指標
(調査研究中)

● 保存樹木
 ■ 保存樹林
 (2014年度末現在)

○市内のごみ排出量
32,197ト (2014年度)
-7.8%

○市内の事業系ごみ排出量
9,571ト (2014年度)
-10.0%

○市内のリサイクル率
12.0% (2014年度)

環境指標の現状はp.3~4に詳しく掲載しています。

掲載している
 取り組みの詳しいことは
環境にやさしい課へ
 お問い合わせください。

